

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年7月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100708
法人名	医療法人 秀愛会
事業所名	グループホーム 清滝
所在地	鹿児島県鹿児島市西千石町13番30号 (電話) 099-213-9950
自己評価作成日	令和4年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年6月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●尊厳を持ってその人らしい暮らしができるようお手伝いします
●ゆったりと暮らせる環境を一緒に作っていきます
●地域の一員としての橋渡しを行います

を理念に掲げ、ご利用者様、ご家族様との関係性を大切にしている。行事も現在は状況により、難しい面もあるがご家族参加型の行事に取り組み、家族会を開催してご利用者の日々の暮らしを知って頂いたり、ご要望や相談しやすい環境作りにとりくんでいる。また鹿児島市の中心に位置し交通の便にも恵まれているため、おはら祭やハンヤ、地域小学校での行事など外出しやすい環境である。行事なども事業所(通所介護事業所やサービス付高齢者専用賃貸住宅)と合同での行事やレクレーションなどの交流を行っている。また沖野循環器科病院が併設であり、定期的受診や緊急時にも対応ができ安心して生活が出来るように支援している。外部研修に参加したり、内部研修にも定期的に開催し年間計画をたててケアの質向上に向けて努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は鹿児島市の中心街地に立地し母体医療機関と同じ建物の6・7階に併設している。
- ・連絡階を使って定期的に受診が出来る。緊急時の対応や24時間医療連携・訪問看護師による健康チェック等、利用者・家族の安心に繋がっている。
- ・食事は食事担当専門の職員がおり、行事食や誕生日のケーキ・手作りのおやつ等、下ごしらえや味見・後片付け等、出来ることは一緒に行っている。また季節の保存食を作ったり、食事が楽しめるような支援を行っている。
- ・管理者は職員の意見をよく聞いて、資格取得への希望者には応援体制ができています。
- ・利用者とかかわりの時間を多く持ちたいとの観点から記録を記号を使って行うように取り組みを始めている。
- ・地域との関係が途切れないように、毎日食べる食材の購入も地元の業者と取引している。その中に町内会長もいるので地域の情報を教えて貰っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各階に「理念」の掲示を行い、共有している。また年に1回勉強会を行い、振り返りを行っている。理念に基づき支援ができていないか、自分達がどのようなグループホームにしたのかの支援の目安にもしたい。	理念は各ユニットの玄関に掲示し、パンフレットにも掲載している。年1回勉強会を実施している。毎月のカンファレンスでも振り返りを行っている。管理者・職員は理念を共有しながら日々のケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型として地域になじみのある、顔見知り、地域の一員としての支援に努めている。現在コロナ禍の状況にて、中々地域との交流もできていないが、落ち着いた際は廃品回収や地域との関りも再開していきたい。	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。地域の商店へ食材を注文し配達してもらっている。町内会長とは日常的に情報の提供を受けて対応している。今後は幼稚園や保育園・学校等との交流も考えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域との関りの中で、運営推進会議等を通して、認知症への理解や症状への質問もあり、説明を行っている。認知症サポーターの研修受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議にて、利用者様の介護度、平均年齢、事故報告、行事報告を行っている。出席者より貴重な意見も職員会議等や行事等で報告、実践を行っている。	会議は事業所の活動状況や利用者の状態・ヒヤリハット等のサービス内容を資料にして郵送している。コロナ禍でも行事食や季節の食べ物作り等の工夫をしたり、アクリル板の衝立を活用しての面会等の評価も頂きながら、サービス向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険法改正での不明な点や日頃より、密に連携をとり、運営面やケアサービスの中でも協力関係を築いている。今後も継続していきたい。	市の担当者には介護保険の申請書類を持参して相談したり、電話で助言をもらっている。研修会はオンラインで参加している。日頃から連携を密に取り協力関係が出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を設置し、3か月に1回、委員会の開催を行っている。その中で身体拘束11項目にあたる拘束を行っていないか、また11項目に当てはまらないか、フィジカルロック、スピーチロック、ドラッグロック等の具体的な行為がないかの振り返りを行っている。又、新人入職の際も研修を行っている。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を行い、事例を出して全職員で話し合っている。身体拘束11項目をチェックしながら具体的に言葉遣い等も含めて話し合い、振り返りも行っている。日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	令和4年5月より身体拘束・虐待適正化委員会を設置し、高齢者虐待の指針をもとに3か月に1回の開催、また身体拘束や虐待の事案が発生した場合は適宜開催を行う。そして委員会の内容は職員へ周知徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について研修等で学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、また締結する前より、本人様、利用者様の不安なく契約に進めるように説明、理解、同意を行っている。また契約時も相互理解を行ったうえでの契約の締結を徹底している。また日頃より相談しやすい環境作りや相談の早期対応ができるように、窓口の1本化だけでなく、担当不在の際は他職員にも周知し、問題解決に向けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在、コロナ禍の状況により開催できていないが、1年に1回、家族会の開催を行っている。その際、頂いた意見を運営に反映させている。開催できていない年は面会等や、定期的に主介護者様に状態報告を行い、困っている事がないか等のお声掛けを行い、必要時、解決にむけて、職員間でも情報共有を行っている。	利用者からは日々の会話の中で意見を聞いている。家族とは電話で話をする機会が多い。面会后に相談を受けることもある。意見が言いやすく、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。出来ることは即対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1回、職員会議や、スタッフカンファレンス、定期的な面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けているが、日頃より職員さんとコミュニケーションをとり、会議等での改まった場面だけでなく、意見しやすいような環境作りに取り組んでいる。頂いた意見は早期問題解決や必要時は法人への報告も行っている。	毎日のケアの中で小さなことから運営に関することまで意見が多く出ている。退院後に落ち着いた利用者席替えを行ったら安心された等、申し送りノートも使いながら、出された意見・提案は話し合い、早期問題解決に取り組むように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人にて実績、管理状況を管理して頂き、職場環境・条件の整備をして頂いている。県、市からの研修も掲示を行い、実践者研修、接遇、マナー等参加を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人からも研修費等の援助や掲示を行っており、研修参加においても働きながら研修を受けやすい環境作りに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の面において、コロナ禍になる以前は、グループホーム同士にて運営推進会議への参加を行っていた。今回、地域包括より、地域でのグループホーム同士での交流会の提案も頂き、取り組みに生かしたいと思っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様が、グループホームでの生活を開始される際、まずは居住地を移す事における環境変化からくる不安、それによる精神状態安定の為に。まずは本人様の見学、同意、ご家族様や周りにサポートも協力を頂きながらサービス利用開始への関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用にあたり、本人だけでなく、本人を取り巻く環境（ご家族）を大切にし料金、入院時の対応、解約時の説明、準備品など不安なく利用開始できるように関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用開始にあたり、サービス内容の説明と要望に応じた柔軟な対応支援を行っている。また各機関への紹介や福祉用具、訪問マッサージ等の活用等。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人様との関係構築において、一方的な立場ではなく、利用者様本位でのケアを行い、また、自立支援における理念を念頭において務めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と、ご家族の今までの関係性を尊重し、本人様を支援させて頂くにあたり入所後も継続した関係性の構築やご家族様の想いも尊重しながらの支援に努めている。面会時だけでなく、定期的に支援内容についても確認を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が親しまれて使用されていた品物や交友関係を本人の意向に沿い、居室において頂いたり、現在はコロナ禍の状況により面会は難しいが、以前はご友人との面会もして頂いていた。電話や手紙でのやり取りをしたり、今後も継続支援を行う。	コロナ禍の中、家族とはアクリル板の衝立を使って面会を行っている。友人・知人等とは電話や手紙・年賀状等で交流している。理美容師には訪問してもらっている。工夫しながら馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の1人1人の状態把握を行いQOLに即した、関係性の構築ができるように個々に合わせた支援に努めている。ご自分から想いを発せない方は職員が仲介に入り、不安感のないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後でも関係性をすぐに断ち切るのではなく、支援させて頂いた関係性を大切にしながら、手紙、来訪、ご紹介を頂いている。ありがたい事であり、今後も継続支援に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	支援をさせて頂くにあたり、本人様の意向を尊重に努めている。困難な場合はご家族様へ想いを確認したり、定期的なアセスメント、モニタリングを行っている。	夜間や就寝前・食事時・入浴時等に、タイミングを見て声掛けを行ったり、自分から思いや意向等を話してくれる場合がある。家族からも電話や面会時に積極的に話を聞き、思いに添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されてからの状態ではなく、入所にいたるまでの経緯をしっかりと把握し、生活環境や役割など、どのように影響するかも含めて支援ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の有する状態把握に努め、現状に即した支援ができるように努めている。また入所される前の趣味、嗜好、役割などもご家族へ聞きながら支援の活用を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、計画作成担当にて介護計画サービスの作成を行い、定期的なモニタリング、アセスメントを行い、有効期間内でも変化がないか、チームやスタッフカンファレンスを行い、現状に即した介護支援の計画に努めている。	本人や家族と話し合いながら、職員の意見と情報を基に、利用者がよりよく暮らせるように介護計画を作成している。モニタリングやアセスメントは6ヶ月毎に行い、状態変化に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の中でも観察をしっかりと行い、申し送りだけでなく、細かい変化への気づき、職員間でも情報共有を行い、ケアに努めている。またそれを元に実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人。ご家族へのニーズへ答えられるように、事前でのアセスメント、モニタリング、経過報告、必要時の変更を行っている。今後も柔軟に対応していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしができるように支援に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人にてかかりつけ医があり、また必要時は専門医の紹介状も頂き、必要時の他科受診を行い、適切な医療を受けるように支援をおこなっている。（歯科往診、眼科受診、精神科受診など）	契約時に本人や家族と話をし協力医がかかりつけ医になっており、定期的を受診を行っている。必要に応じて専門医への紹介状があった時や他科受診の折には家族が付き添っている。適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護をして頂きながら、情報提供を行い、相談支援を頂いている。また、定期受診以外でも不安な事も日頃より相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際も協力医以外の際も入院先の担当の方と連携を取り、退院支援に向けた情報共有をおこなっている。また入院、退院時の情報提供だけでなく、実際に面談にいき、受け入れが可能か等、スムーズな退院に向けた支援を行い、また担当者との関係作りに努めている。またご家族様にも利用料金等の説明を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに対しての説明、同意を行っており、本人、ご家族の意向に添えるように支援を行っている。また、今回看取りの指針の作り変えを行い、看取りは個に存在する物ではなく、生活の延長線上に存在する事、また意向は場面によって変わる物であり、柔軟に対応できるように支援を行っている。	契約時に本人・家族に看取りについての説明と同意をもらっている。看取りの指針は見直しをして全職員が共有している。利用者の状態変化に応じて細やかに説明し、主治医からも状況説明をしてもらいながら、関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人にて緊急時の対応、看護体制を整えており、実践に繋がっている。応急処置等も事前に把握を行い、実践力を身に付けた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、日中、夜間、また災害を想定した避難訓練を実施している。今回新たに洪水を想定した訓練も令和4年度から実施している。また、備蓄の確保（保存期間5年）の定期的な確認も行っている。</p>	<p>年2回消防署の協力をもらって昼夜間想定で避難訓練を実施している。今年は洪水の想定でも行った。消火器の使い方の訓練も行った。避難場所への安全な移動については法人職員の協力がある。非常用の備蓄については、米・水・レトルト食品・缶詰等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本人様のされてきたお仕事、役割、家庭での位置など、ご家族様にも事前に情報を聞いて、プライバシーを損なわないような声掛け、尊重を行っている。</p>	<p>プライバシー保護のため、居室へ入室時にはノックを行っている。トイレ誘導は「散歩に行きましょう」と声掛けをしたり、歩行練習しながらトイレ誘導をする等、自然な流れの中で声掛けを行っている。申し送り時の声のトーンや採血結果等の個人情報についても配慮している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自己決定の支援として、本人様が選択されるような、また困難な際は二者択一できるように(着替えの選択、想いや意向の選択)をできるように職員都合ではなく、今後も支援を行う。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々に応じた生活リズムでの支援を行い、希望に添えるよう支援している。強制ではなく、本人様の楽しみごとや、役割をして感じている事(家事動作、お膳拭き、台拭き、洗濯物たたみなど)を今後も継続支援して行きたい。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>個人個人の望まれるように、おしゃれやお化粧品をして頂いている。見当識、失認、失行のある方に関しては声掛けの工夫やプライド、プライバシーに尊重して支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り担当の方が各階において、主体となって、行事食、また食べて頂く事だけでなく、調理支援(ラッキョウの皮むき、梅作り、餃子作り、あく巻き作り)を行っている。実際に導入する際は包丁使用、職員として不安はあったが、逆に職員へ教えて頂けるなど以前されていたころの手つきで不安なくして頂いた事に新たな発見があった。	調理専門のスタッフがいる。食事の要望を聞いて季節の食材を使ったり、誕生日の手作りケーキ等で食事を楽しんでいる。刻みやミキサー食も食べる前にメニューの紹介をしてから食事介助を行っている。あく巻・ギョーザや保存食のラッキョウ・梅等を一緒に作って楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養ケア支援として、法人での管理栄養士より、指導も頂き、支援に努めている。個々に応じた、カロリー摂取量や塩分量の確認、形態食の提供、必要時の支援を行っている。また入院時、退院時での情報提供や情報、指導も頂いており、支援に生かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア支援において、協力医との連携をとり、定期的な口腔内チェックや、痛みや違和感に対して、すぐに対応できるように支援を行っている。また、口腔ケア時や、嚥下困難、覚醒促しの為のアドバイスも頂き、支援に生かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に応じて、排泄チェック表の記載を行い、排泄パターンを理解し、自然排便に向けた取り組みを行っている。終日オムツを使用されている方もトイレ案内の際、便座に座って頂く事で、排泄の促しにもなり、排尿や排便がある方もいらっしゃる為、継続支援を行っていきたい。	排泄チェック表を使って個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。おむつを使用していても便座に座ることで排便・排尿されることもある。失敗時の理由も大事にしている、次の介助に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄支援として食、運動、水分摂取の働きかけを行い、自然排便コントロールに向けた取り組みを行っている。室内でできる運動として限られてくるが、足上げ、手すりを使った運動、歩行器歩行の実施を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴支援は週に2回実施している。本人様の気分に応じて、入浴介助が困難な際は声掛けの工夫を行ったり、時間を空けて声掛けや曜日変更を行っている。	週2回を基本に一人介助・二人介助・同性介助等、利用者の状態や要望に合わせて入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者には時間や曜日を変えたり声掛けを工夫して、入浴が楽しめるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠支援に関して、就寝時間は個々に入床案内を行い、また定期的に巡視にて睡眠状況の確認を行い、把握を行っている。利用者様によっては、睡眠導入剤を服用されている方もおられるので、効用や副作用の理解も行うように努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在宅療養管理指導を受け、個々に応じた薬剤指導を受け、その中で効用や副作用に関する症状の理解もを行い、支援に努めている。また、薬剤指導があった際は職員でも共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々での趣味やされていたお仕事、楽しみのヒヤリングを行い、聞き取りが行えない方に関しては、ご家族にも聞きながらケアに取り入れて行くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在、外出レクが厳しい状況にあるが、以前は季節ごと屋内外にて行事レクを行っており、またご家族からの要望があった際は、外泊対応も行ってた。その際、ご家族からもお手伝いのお声掛け頂いたり、今後も実施を行っていきたい。	以前は家族の協力をもらい外出・外泊・外食等を行っていたが、コロナ禍で外出自粛しているため、屋上の藤の花の見物やお茶飲み・ホールに桜の花を飾り花見を行った。コロナ禍が収まれば希望を聞いて外出・外泊支援の実施を行う計画である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、コロナ禍の状況により一緒に買い物に行ったり支援できていないが、以前は市場等、外出時に行き、買い物なども行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持ってこられている利用者様やタブレットにて定期的に面会を行っている利用者様もおられる。また遠方にて中々会えない方は手紙を頂いたり、暑中お見舞い、年賀はがきの送付も全体レクの一貫として支援しており、ご家族も利用者様の字を直接見ることができ、喜んで下さっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにおいて、不快な刺激にならないように、職員に合わせた調整ではなく、利用者様にあわせた五感への働きかけ、照明の調整、テレビやラジオの音、気温、湿度調整を細かく行っている。また掲示物などは季節に合わせた物や生活空間の工夫を行っている。	リビングは明るく、換気・室温・湿度等に十分配慮し、空気清浄機やエアコンで過ごしやすい。季節の飾りつけ等をして、テレビやラジオの音の大きさにも気配りしている。リビングからキッチンが見え、おいしそうな匂いや音がしてくる。居心地よく過ごせる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人のプライバシーや個々の時間を大切に、グループホームでもレクリエーションなどの時間や内容を固定化せずに、思い思いの時間で過ごせるような工夫を行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のレイアウトや環境整備は本人、家族と相談しながら、過ごしやすく快適に過ごせるように工夫を行っている。</p>	<p>居室のベッド・エアコン・箆笥は事業所が準備している。寝具や仏壇・位牌・写真・椅子・テレビ等、本人がこれまで使っていた馴染みの物を職員と一緒に話し合いながら配置し、居心地よく過ごせる空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>環境作りにおいて、自立支援の元、バリアフリーや導線の確保を行っている。またプライバシーにも配慮し、トイレから浴室、五感の相互作用にも気を付けながら個々の生活支援ができるように努めている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない